



「第8回 東海どまんなか祭 in 三重」に参加して (活動報告)

～集え はじまりの地 お伊勢さんへ！～



初参加！関西から三重へ

2025年6月14日(土)～15日(日)、午後1時半より伊勢市のシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢(伊勢市観光文化会館)にて開催された「第8回 東海どまんなか祭 IN 三重」に、関西 PHP・SDGs 友の会として金原が初参加いたしました。

本イベントは、東海エリア本部の主催で行われ、全国各地から PHP 友の会の仲間たちが集う年に一度の貴重な機会です。総勢70名が参集しました。参加コースは記念講演会・懇親会・宿泊・伊勢神宮の神楽殿でのご祈祷と多彩で、私はすべてのプログラムに参加させていただきました。

雨にも負けず、心は晴れやかに

当日はあいにくの激しい雨でしたが、屋内での開催ということもあり、スムーズにプログラムが進行。私は神戸市から近鉄特急で移動し、10時半過ぎに現地到着。すでに受付も整い、伊勢少年少女合唱団のリハーサルや影絵劇「古事記－日本のはじまり－」の準備が進められており、歓迎ムードに満ちていました。



また、私たちが6月1日に神戸・北野坂ギャラリーで開催した「子どもとともに考える SDGs 特別イベント」にて配布した資料(松下幸之助氏と池田大作氏との対談抜粋集)を20部持参し、受付にて自由に配布。三重でも関心をもって手に取っていただきました。

記念講演：松下幸之助に学ぶ生き方と経営哲学

記念講演では、松下資料館顧問・遠藤紀夫氏が登場。テーマは「松下幸之助に学ぶ － 誰でも神様になれます －」。



遠藤氏は、松下幸之助翁の経営哲学をわかりやすく、そして熱く語ってくださいました。

「経営とは、社会に役立ち、お客様に喜ばれること。すなわち、人の幸せづくりに貢献すること」
「赤字は“お客様から支持されていない”証。真剣勝負で商売をせよ」

「利益は使命達成の報酬であり、国家に財源を提供する役割を担っている」

さらには、「人生もまた経営である」との考えを提示し、「自分の人生は自分で創り出すもの」であり、

「素直な心」「自己観照」の大切さを強調されました。

「雨が降れば傘をさす」

～幸之助翁のメッセージ～

講演の中で印象深かったのは、幸之助翁が語った有名な言葉：「雨が降れば傘をさす。それが人生というものです」。今なすべきことを、素直な心でしっかりと実行する。この当たり前のようできて深い教えが、会場全体に静かな感動を与えていました。

「気づけ、気づけ、気づけ」

——心に刻まれた言葉

講演の最後には、次のような力強いメッセージがありました。

「治に居て乱を忘れず。気づけ、気づけ、気づけ。」

幸之助さんはそう語られました。皆さんも“自分の人生を生き切る”覚悟を持ってください。人生哲学の実践者となれば、誰でも“神様になれる”のです。この言葉を胸に、関西 PHP・SDGs 友の会の活動にも、より一層の熱意と素直さをもって取り組んでまいります。

最後に

ご縁をいただいたすべての皆様に心より感謝申し上げます。三重の地での学びと交流は、今後の活動に大きな力を与えてくれます。これからも「素直な心」で、自主責任の精神を胸に、共に歩んでまいりましょう。誠にありがとうございました。

(写真：全国 PHP 友の会 東海エリア本部
文責：関西 PHP・SDGs 友の会会長 金原由香)

